

2011春季生活闘争

序盤のとりくみを確認する



今後の闘争にむけて、意思統一をした

紙パ連合

発行所
日本紙パルプ紙加工
産業労働組合連合会
〒107-8333 東京都港区北青山
2丁目12番4号
TEL 03-3402-7656
FAX 03-3402-7659
URL <http://www.jpw.or.jp/>
発行人 鈴木辰男
購読料は組合費に含む
定価2頁10円、4頁20円



公正な 配分を求め

紙パ連合は2月18日、紙パ連合本部会議室で、第1回中央闘争委員会を開催し、連合と各産別の動向、各組合のとりくみ状況を確認する中で、序盤のとりくみにあたって「当面の方針・その1」を確認した。その後、各組合のとりくみ状況を把握する中で、第1次集中決着日(3月16日)にむけ、今後の交渉を精力的に展開していくことを確認した。

第1回中央闘争委員会

当面の方針その1

冒頭あいさつした鈴木 厳しいが、今のデフレは大しがない。そのためには内需を活性化させて経済の回復につなげることが不可欠である。また、企業が発展するためには

目先の利益に埋没することなく、人材の確保などの人への投資が必要である。今後の紙パ産業のあり方について十分な議論をする。同時に、デフレ脱却が企業の収益改善にもつながることなど要求の必要性を強く訴えよう」と述べた。

このあと、今次闘争を取り巻く諸情勢や連合・主要産別の動向について確認するとともに、各組

合のとりくみ状況を把握する中で、第1次集中決着日(3月16日)にむけ、今後の交渉を精力的に展開することを確認した。

1 情勢認識と基本的な姿勢

●全般の春季生活闘争情勢

1月19日、連合と日本経団連との労使によるトップ会談が行われ、2011春季生活闘争が本格的にスタートを切った。労働側は「デフレを賃上げで歯止めをかけるために、適正な配分として、給与総額を前年度に比べ1%引き上げるべき」と要求した。それに対し、日本経団連は、従来通り人件費抑制の姿勢を崩さず「賃金よりも雇用維持を優先すべき」との考え方が示されている。一方「踊り場から脱出しつつは「給料は少しずつ上げ

●紙パルプ・紙加工産業の状況

紙パルプ・紙加工産業、各社の2010年4月〜12月期の業績は、売り上げは伸びているものの、円高の進行やデフレ基調の継続などにより、品種構成によって企業ごとの収益にバラツキがある。また、通期収益予想でも市況の下落や原燃料費の高騰、チラシ・カタログ

●闘争への基本姿勢

紙パ産業は、内需の大きな伸びが期待できない中で、求められているのは高付加価値製品の開

発である。その付加価値や競争力を生み出すには優秀な人材を安定的に確保することが極めて重大な課題であり、それは「人への投資」である。紙パ産業の魅力を高め、活気のある産業にしたい。そのためにも、今次闘争では賃金改善等にとりくみ、労働条件を改善していかねばならない人材を確保できない。同時に、組合員の日々の懸命な協力・努力に心え、今後の動きがいかなるためにも、賃金・一時金をはじめとする公正な配分が求められる。

2 序盤のとりくみにむけて

(1)各組合は、産別統一要求基準を踏まえた中で要求を決定し、2月28日(月)までに要求提出を行い、直ちに団体交渉を実施する。
(2)団体交渉にあたっては、要求に確信をもち、粘り強く納得いく交渉を積み重ねていく。
(3)深刻な状況が続く国内経済を回復させるためには、賃金の引き上げによる個人消費の喚起が重要であること。さらには、内需中心の産業である紙パルプ・紙加工産業が発展していくためにも個人消費を中心とした内需の拡大が重要であり、それが

3 今後の闘争日程

(1) 要求提出	2月28日(月)まで	
(2) 集中決着日	3月16日(木)	第1次集中決着日
(3) 闘争諸会議	3月21日(月)〜26日(土)	第2次集中決着ゾーン
	3月3日(木)	Lグループ会議
	7日(月)	第2回中央闘争委員会
	12日(土)	第3回中央闘争委員会兼拡大Hグループ会議
	14日(月)	Lグループ会議
	16日(水)	Lグループ会議
	19日(土)	Sグループ会議
(4) 統一行動日	3月15日(火)	統一ビラ配布行動、他
(5) 経営対策	3月14日(月)	第2回日本製紙連合会労務部会への申し入れ

性を重視するとともに産業の地位向上を目指し、生活防衛・維持、産業としての活力の確保、働くモチベーションの向上などあらゆる情勢を加味してとりくむ。
③一時金は、生活給の一部として安定確保が欠かせないことを訴えるとともに、一時金の社会水準確保や、経営諸施策に対する組合員の協力・努力への成果還元を求めていく。
④60歳以降の雇用継続制度拡充、総労働時間短縮、連続休暇休暇、非正規労働者等の処遇改善、その他の独自要求についても、実現に向けて労使交渉を積極的

に進める。
③中央闘争本部ならびに地方闘争本部は連絡を密にし、団体交渉の促進や経営対策、支援オルグな

ど、きめ細かな戦術対応を指導・実践する。
(4)各グループ会議・共闘は相乗効果を高めるため、内外の情報収集・提供など連携を密に行う。
(5)ヤマ場は第1次決着日と第2次決着ゾーンを設定する。各組合はヤマ場にむけて、結果できるような態勢を整える。
①第1次集中決着日は3月16日(水)とし、翌週の21日(月)〜26日(土)を第2次集中決着ゾーンとする。
②第2次集中決着ゾーンでの決着にむけて、Sグループ会議を開催する。また、共闘強化をはかる目的から交渉や折衝などを23日(水)に一斉に展開する。
③全組合が3月中に解決できるような態勢づくりをはかる。

魅力ある産業を目指して闘いぬこう

～地本単組・支部代表者会議報告～

努力が報われる春闘に

【北海道地本発】
1月29日、札幌ファーストホテルにおいて、北海道地本単組・支部代表者会議を開催し、紙パ本部から勝又中央執行委員、19単組・支部から総勢51名が参加した。

冒頭、前田地本執行委員長より日本経済の動向、紙パ産業の状況などについて話があり、「2011春闘では、厳しい経済環境下ではあるものの、組合員の日々の努力が報われる春闘にしたい」と挨拶した。



紙パ産業の状況について述べる前田地本委員長(日本・勇弘)

春闘に向けて情報交換

【北陸地本発】
2月19日、石川県山代温泉「かが楽」において、第2回単組支部代表者会議および2011春季生活闘争学習会を開催し、紙パ本部から荒木中央書記長、各単組・支部から総勢30名が参加した。

識した。また、単組支部代表者会議では、荒木中央書記長より「2011春季生活闘争をめぐる情勢と課題」の提起、各単組・支部報告では、企業状況・春闘への取り組みが報告され、質疑の中では、職場の人員不足・組合役員(パ・二塚)

員からは、「交渉委員だけではなく組合員全員が見える春闘・納得出来る回答に努め働く者のモチベーション向上につながるよう互いに精一杯頑張ろう」と力強く訴えた。



春闘の取り組みについて情報交換した北陸地本

連携強化を誓い合う

【関西地本発】
2月5日、大阪府吹田市勤労者会館において、第2回単組・支部代表者会議を開催し、紙パ本部から神田中央委員長、各単組・支部から総勢33名が参加した。

冒頭、神田中央委員長は「今年春闘を取り組むにあたり、紙パ産業の状況は、原材料価格の高騰が影響し、大手6社のうち3社が前期マイナスになるなど企業業績のバラツキがあり、経営側の抵抗が予想されるが、組合員の会社諸施策に対する協力・努力を訴え、産業

労働者の生活と権利を守る

連合2・10中央総決起集会ひらく



約2000人が参加した中央総決起集会

連合は2月10日「2011春季生活闘争・闘争開始宣言2・10中決起集会」を開催し、紙パ連合からは10名参加、会場の日比谷公会堂には約2000名の組合員が集結した。

一致団結で春闘に臨む

【中国地本発】
2月3日、岡山シティホテル桑田町において、2011春闘学習会を開催し、紙パ連合本部から宮崎中央委員長、各単組・支部から総勢33名が参加した。

冒頭、宮崎中央委員長は「国内の経済情勢・紙パ産業の動向・紙パ連合の要求方針と課題について説明があり、全体質疑の中で、再雇用者が組合未加入のため未加入者が増加している。組合費の徴収が減少し、今後財源への影響が見込まれることから対策が必要となる」との意見があり、時代に即した問題点が浮き彫りになってきている

中小組合の交渉を支援

【九州地本発】
2月13日宮崎市において、単組・支部代表者会議を開催し、紙パ本部から小林中央委員長、10単組・支部の代表者が参加した。

冒頭、那須地本委員長は「前日開催の紙加協との合同会議の総括と、次世代の役員育成に向けたリーダースクールへの派遣及び議員懇談会のあり方について述べた。

お詫びと訂正

機関紙「紙パ連合・No.522」に、誤植がありましたので、ここに訂正しお詫び申し上げます。
【訂正箇所】
No.522、2～3面の質疑応答(見開き右側)
※4段目右から9行目の執行部答弁で「目標」とした。を「目安」とした。と訂正

は活発な質疑応答があり、中小組合では「賃金力アップの算出を行い継続的な賃金交渉ができる体制づくり」をおこなっていく事確認した。今会議では、これまで以上に各単組が情報交換を行い充実した会議となった。(岩月書記長：中・川内)

要求方針を真剣な眼差しで聞く中国地本の参加者たち